

小規模校の課題等について

児童数が少ないことによる学校運営上の課題			複数学級なら可能になること
		小規模校の場合	
1	体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる	各学年で1チームしか編成できず、試合形式や合唱大会を行うには 小規模開催となり、一定人数がいることで得られる相乗効果が得られにくい	体育では リーグ戦やトーナメント形式を取り入れた指導が可能 音楽ではパートや楽器など 豊富な構成を組むことができ、迫力あるもの に
2	運動会・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の保護者負担を軽減することや教育効果を高めることが容易ではない	泊を伴う行事の バス代等、団体で購入するものについては一人あたりの負担額が高くなることで、現地での活動内容が縮小されることも考えられる 運動会の出場種目が増えたり、迫力が欠けたりする	泊を伴う行事にかかる 予算をより有効に活用することができる 運動会の 種目数が適正化され、一定の人数で実施することで、迫力ある運動会を可能にする
3	クラス同士が切磋琢磨する教育活動が限られる	少人数で何かをやり遂げることを指導し、「やりきった」という達成感を与える指導はできる よい意味で他者と競い合い、意見を交わしたり「負けたことがくやしい」という経験したりしにくい	よい意味の競い合いで、「 失敗すること 」や「 負けること 」を経験でき、 自己を客観視し、困難を乗り越えようとする態度を育成することができる
4	クラス替えができない	人間関係の固定化につながる	クラス替えは、 新しい人間関係を構築する機会 になる
5	多くの言葉と出会う機会が限定され、習熟度別授業など多様な学習形態を経験することもむずかしい	単学級であるために学級を分けて指導することができない⇒ 児童の課題に応じた学習形態が組めない 友だちを介した言葉との出会いも限定的	1学年の人数が多ければ、数多くの意見を引き出す 集団授業や、きめ細かい指導ができる習熟度別授業が実施しやすくなる
6	学年の先生が1人であるため、経験や力量によって差が激しい	全市的に 教員経験10年未満の若手教員が増加している 先輩教員から多くのことを学ぶべき若手教員が単学級のために 身近により影響を受けられる存在がいない	1学年を複数教員が担当することができ、それぞれの良さを引き出し、切磋琢磨できる環境を整えられる

7	PTA の役割を限られたメンバーで割り振ったり、人選したりしないといけない	一旦協力が得られにくくなると、 少ない家庭数の中から PTA 役員や実行委員を選出しなければならず、継続可能な組織とすることが難しくなることがある	家庭数が増えることで役員や実行委員を人選できる 選択肢が増え、継続可能な組織につながりやすくなる
---	---------------------------------------	--	---

生徒数が少ないことで、実施しやすいこと		小規模校の場合	複数学級ならよりよい形にできること
1	一人一人の児童理解をはじめ、学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい	学校規模というより 1クラスあたりの人数できめ細かさに差が出る 1～2年生 ・ 35人以下→1クラス、36人以上→2クラス 3～6年生 ・ 40人以下→1クラス、41人以上→2クラス	1名の生徒を見る教員の数を増やせる （複数学級になると学年で2人以上の教員配置） ⇒児童にとって、 多くの教員に出会う機会 になる
2	意見や感想を発表できる機会が多くなる	上記同様、小規模校のメリットというより、 少人数クラスのメリット	少人数による習熟度別指導できめ細かい指導 を実施したり、 発言の機会を増やしたり できるとともに、 多人数による集団授業 により、1つの発表に対する 多様な意見を引き出す こともできるようになる
3	様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる	1学年の人数が「40名」を超えるかどうかで変わる	班活動やグループ分けの際に、人数が少ないことによる制約が解かれるので、「 初めてのグループ 」で「 新たな役割 」を得る機会を増やせる